

4月21日、佐賀市内において、諫早干拓早期開門を求める4県漁民の集いが開催された。

稚貝すらいない

漁業者からの報告

平方(佐賀・タイラギ漁)…今、タイラギの稚貝すらいない。来期もタイラギ漁の許可は出ないだろう。例年、タイラギ漁の許可が出ない場合は、イダコ漁などに行くが昨年は例年の10分の1しか獲れなかった。それでは燃料代にもならないので、漁に出ることもできない。クラゲを獲ってしのいでいる。12月ではなく一日も早い開門を求める。

石田(長崎・瑞穂漁協組合長・カキ、アサリ)…1日漁に出てもアサリが4・5キロしか獲れない。かつては80キロくらい獲れていた。カキも前年度の半分しか獲れない。毎年、組合の脱退者があるとを絶えず、組合存続の危機にある。

室田(長崎・ノリ)…長崎県は、今も調整池から遠慮なしに排水している。それなのに、なぜ福岡高裁に基づく開門だと被害が出るというのか理解ができない。

篠塚(長崎・ノリ)ノリの漁業被害がひどく、昨期は2名、今期は4名が

廃業した。10月には次の漁期にはいるので、12月の開門じや遅すぎる。来期の漁期を安心して迎えられようように開門時期の前倒しを求め

中田(長崎・漁船)…うちの地域では、色々なしがらみで声をあげられなくなっている。開門を目指す会合にも出かけることもできない。くじけそうになるが、有明海の再生ができれば自分自身の負けだ。豊かな有明海を取り戻すために死ぬ気でやる。妻に4800円の日当で農家にアルバイトに行ってもらっている。それでご飯を食べている。

北原(福岡・ノリ)…今期の柳川は、秋芽は採れたが、その後、不作になった。従来、柳川は有明海の中でも良いノリが採れる地域だが、今期は枚数が採れず、不作のため共済による救済措置を受けなければならなくなった。うちの組合でも2名が漁をやめなければならなかった。

前田(熊本・ノリ)…荒尾の干潟がラムサール条約に登録され、有明海の再生のために頑張らないかんといい気持ちで新たに荒尾のアサリや海産物をラムサール条約でブランド化しようと頑張っている。しかし、魚がいらない。例えば、マジヤクがいなくなってきた、巣穴も見られない。魚がいないのでクラゲを獲って生活

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

しなければならぬ。田中(福岡・ノリ)…大和地区では、去年の水害で機材が壊れたりしてマインナスからのスタートだった。頑張っている。開門して海が良くなったから、これまでウソが明らかになる。調整池は開門して一週間で水質の改善が見られるだろう。開門後すぐに調査をしなければならぬ。アセスメントというのは大事な情報をそうではない膨大な情報(ノイズ)で埋れさせて人の目に触れさせなくするのが目的。開門後は、分かりやすい調査が必要。



分かりやすい調査必要

研究者からの報告
高橋徹(熊本保健福祉大学)…一番被

害を受けている小長井地区の組合長が開門に反対している。彼らが開門したら海が良くなることを一番知っている。開門して海が良くなったから、これまでのウソが明らかになる。調整池は開門して一週間で水質の改善が見られるだろう。開門後すぐに調査をしなければならぬ。アセスメントというのは大事な情報をそうではない膨大な情報(ノイズ)で埋れさせて人の目に触れさせなくするのが目的。開門後は、分かりやすい調査が必要。

有明海を環境学習の場へ

佐賀県議会からの報告

土井敏行(鹿島市に)…鹿島市に住んでいて、ガタリンピックに当初から関わっている。多くの市民に干潟に入ってもらって有明海の素晴らしさを知って欲しいとの思いでやっている。地元漁師は「有明海がこの状態なら、子どもに跡を継げと言えない」と嘆いている。12月開門ではなく前倒しを求める。また、制限開門ではなく段階的な全開門を求めて行く。韓国の訪問したが、シファア湖では大統領命令で水門を開け、水質が改善している。シファア湖の堤防では今、潮力発電が行われている。順天湾では干拓をやめ干潟を保全した。その結果、環境学習の場として賑わっている。この取り組みに学ぶべきである。